



スポーツ SPORTS

全国で活躍した選手・団体など55人、42団体にスポーツ表彰
～平成22年度小林市体育協会スポーツ表彰式～



スポーツで優秀な成績を収めた個人・団体を表彰する小林市体育協会スポーツ表彰式が、2月23日に文化会館で開かれました。

式では、同協会の安楽重則会長が「日本を代表する選手になるよう努力・精進してほしい」とあいさつ。受賞者を代表して全国高校総体で初優勝した小林秀峰高校ハンドボール部の荒木健志さんが「これからも地域に応援されるチームを目指し頑張りたい」と謝辞を述べました。

(以下受賞者・敬称略)

【スポーツ特別賞・個人・団体】
 ▼黒木沙織(小林テニス協会)
 ▼原健也(小林秀峰高男子ハンドボール部) ▼河野光星(同)
 ▼北林健治(小林秀峰高男子ハンドボール部監督) ▼小林秀峰高男子ハンドボール部

- 【スポーツ優秀賞団体・小・中学校の部】
- ▼三松小ハンドボールスポーツ少年団 ▼小林ミニバスケットボールクラブスポーツ少年団 ▼野尻クラブスポーツ少年団(野球) ▼細野野球スポーツ少年団 ▼小林R・G(新体操) ▼宮崎県トランポリンチーム ▼宮崎県Aトリプルゆう(トランポリン) ▼小林中陸上駅伝部(低学年男子4×100リレー) ▼三松中男子ハンドボール部 ▼三松中女子ハンドボール部 ▼小林中男子バスケットボール部 ▼小林中男子陸上駅伝部 ▼小林ボーイズ(野球)
- 【同：高校の部】
- ▼小林西高女子ソフトボール部 ▼小林高女子バスケットボール部 ▼小林高女子駅伝部 ▼小林秀峰高新体操部 ▼小林秀峰高女子ハンドボール部 ▼小林高駅伝部
- 【同：一般の部】
- ▼小林市A(小林市ハンドボール協会) ▼小林市C(ソフトバレー) ▼小林市A(駅伝女子) ▼宮崎ツアーサービス(野球) ▼レインボー(ベタンク) ▼あすなろ(同) ▼銀杏C(同) ▼

- 【同：中学校の部】
- ▼村崎秀(小林中陸上駅伝部) ▼窪谷早希子(同) ▼富満玲央(同) ▼野添健太郎(同) ▼轟木亜間(同) ▼富満あかね(同) ▼海江田理湖(同) ▼大牟田恵利奈(同) ▼大木場真由(水泳・タートルスイミン)
- 【同：高校の部】
- ▼大畑裕貴(柔道・小林西高) ▼宮田雄基(同) ▼新竹美咲(弓道・小林西高) ▼中村祐希(陸上・小林高) ▼杉本理穂(陸上・小林高) ▼中嶋真太郎(小林地区柔道会) ▼黒木智紘(同) ▼外園耕規(小林市空手道連盟) ▼青屋爵(小林秀峰高新体操部) ▼朝留光宏(同) ▼砂田修太郎(同) ▼荒木健志(小林秀峰高男子ハンドボール部) ▼津山弘也(同) ▼津山弘巳(同) ▼園田麻乃(小林秀峰高女子ハンドボール部) ▼佐土原大知(小林秀峰高ウエイトリフティンズ部) ▼殿所優太(同) ▼清水雅文(同) ▼内門沙綾(同)

- 【同：一般の部】
- ▼小川利廣(小林市水泳協会) ▼留野重治(小林市陸上競技協会) ▼西村延代(同) ▼黒木秀子(同) ▼石橋節子(同) ▼齊藤憲夫(同) ▼齊藤貴憲(同) ▼山本正和(同)

文化の足跡 TRACES

かね 鉦踊り ～受け継がれる伝統芸能～

Vol.44



鉦踊り～郷土芸能フェスティバルにて～

野 尻町三ヶ野山地区には、郷土芸能「鉦踊り」(市指定無形民俗文化財 昭和53年11月10日指定)が伝えられています。

浴衣・袴・白足袋・草鞋・笠を身に付け、太鼓や鉦を打ち鳴らし、華麗に踊ります。今を去る八百有余年前、源氏と平氏が一の谷で戦いました。源氏は敗れた平氏の残党を追討するため、九州日向までたどり着き、疲れ果ててこの地に住み着きました。苦

しい山村生活の苦勞を慰めるため、華々しかった一の谷の戦いを思い浮かべ、その様子を舞踊化したのが鉦踊りの始まりといわれています。

現在、この踊りは鉦踊り保存会と栗須小学校文化財愛護少年団が伝統を受け継ぎ、郷土芸能フェスティバルや運動会などで、華々しく舞われています。小学校の子どもたちが伝統芸能を舞い継ぐ頼もしい後継者となっています。

国際交流『シャネットの徒然なるままに』

WORLD

守護隊員!

Vol. 8

私 の実家から小林の家までは約9、333キロあります。その距離を、兄が彼女と一緒に越えて、私に会いに来てくれました。日本語の話せない兄たちにとって、初めての来日でしたが、素敵な思い出になったそうです。

兄たちは大阪や京都を少し観光したあと、宮崎に来ました。金閣寺より、鶴戸神宮の方が気に入ったそうです(私もそうです)。三之宮峽がすてきな場所でした(私も同感です)。兄の一番好きな日本料理は何だと思いませんか?なんとカレーうどんだそうです(私と一緒になんです)。よーさすが兄妹ですね。

さて、兄が来てくれたおかげで大変珍しい経験をさせてもらいました。それは消防署の案内です。兄はドイツで救急隊員を、兄の彼女は若いころ、消防士のボランティアをしていたので、二人とも興味を持っていました。しかし、兄の仕事について詳しく知らない私が、実は一番興味を持ってたんじゃないかと思えます。消防士の皆さんがす

小林の消防士はとても格好よくて親切です。兄がドイツに帰っても心配ないです。きっとこの人たちが守ってくれます。

兄がおそらく一番驚いたのは、ドイツの救急車の中に立ったまま乗れるのに対して、日本の救急車は天井が低くて立つと頭が当たります。ところで、兄が日本で一番最初に覚えた言葉は「大きい」でした。理由は明らか。兄の身長は2メートルです。私も「大きい」とよく言われていますが、兄の横だと「小さく見えるね」としか言われません。

中央署の皆さんと。私の左に兄とその彼女です。

